

令和3年4月2日

卒業設計「そのとき、そこにて、おもう～柏崎地域15無人駅再構築の提案～」 作品展示会のお知らせ

新潟工科大学では、学生による柏崎に関する研究発表会（主催 柏崎商工会議所総合建設部会）で最優秀賞を受賞した学生の卒業設計の作品展示会をJR柏崎駅において行うこととなりました。これを機会に新たな柏崎地域の魅力として発信できればと考えております。

皆様から取材をいただきましたら幸甚に存じます。

なお、お手数お掛けいたしますが、待合室における新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大防止のため、取材いただける場合には、事前に取材の日時と人数を本学にお知らせくださいますようお願いいたします。

【 概要 】

◆展示期間 令和3年4月5日（月）14：00～4月19日（月）15：00

◆展示会場 JR柏崎駅（待合室）

◆展示内容 卒業設計作品の展示（模型・パネル）

◆設計内容 本設計では、無人駅15空間のそれぞれの価値を見つけ、建築的手法により顕在化し、空間を再構築するそして、その空間の魅力がどんな体験や行為を生むのかについて提案する。（詳細は別紙のとおり）

◆作品説明 4月9日（金）16：00～17：00に設計した藤本君（現 新潟工科大学大学院博士前期課程 1年）が現地にて作品についての説明を行います。

主催：新潟工科大学、協力：JR柏崎駅
後援：柏崎商工会議所、新潟工科大学産学交流会

【お問い合わせ】

キャリア・産学交流推進課 担当：佐藤・巻口

TEL：0257-22-8110 FAX：0257-22-8123

E-mail：careersangaku@adm.niit.ac.jp



企業がつくったものづくり大学

新潟工科大学

そのとき、そこにて、おも う - 柏崎地域 15 無人駅再構築の提案 -

新潟工科大学工学部工学科 藤本大賀
(指導教員：倉知徹)

1. 背景

柏崎は、何もないと思われてしまうことが多い。これは、市外出身者に限らず、そう思っている現状だ。しかし、無価値な場所は無い。価値は柏崎の至る所で発見でき、それらからなる空間は魅力を創出する。柏崎の魅力を誰もが知るためには、空間の価値の顕在化が必要である。

柏崎の中でも、価値の顕在化が必要なものに、無人駅が考えられる。側線跡や利用者の見合わない大きい駅舎、広大なホームやロータリーなどが残されている。さらに、柏崎では全 17 駅に対して 15 駅が無人になっている。かつてはコミュニティの中心だった 15 の駅が、人の管理を離れ自然に還りつつあるのだ。したがって、自然豊かなこの地域で、無人駅の空間価値は大きな可能性があると言える。

2. 目的

本設計では、無人駅 15 空間のそれぞれの価値を見つけ、建築的手法により顕在化し、空間を再構築するそして、その空間の魅力がどんな体験や行為を生むのかについて提案する。

3. 計画敷地

対象とするのは、新潟県柏崎地域にある無人駅 15 空間とその周辺である(図 1)。

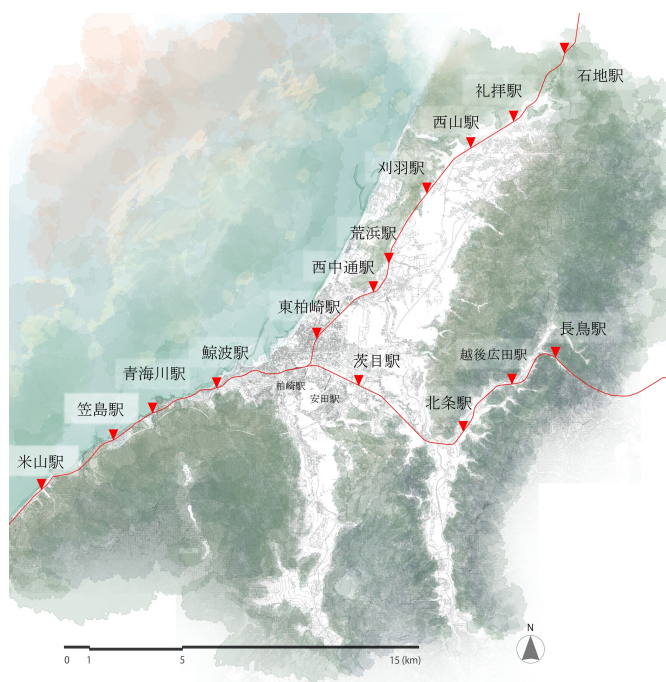


図 1 無人駅の位置図

4. 提案

4-1. 空間の価値の顕在化

駅空間の価値には様々なものがある。海の上のホームや風景を切り取った物見窓、どこまでも続く長いホームなど物的な価値。さらには、駅までわざわざ遠回りをすることに意味があるという概念的な価値もある。それらは、環境や状況、バックグラウンドから無数に存在する。これらを建築的操作によって可視化し、体験や行為にすることで、顕在化させる。(表 1)

4-2. 小さい建築であること

建築的操作を最小にしつつ、空間価値を顕在化させる。人の管理に限られた無人駅では、機能に従った建築は必要としない。駅という機能は変えずに、空間の価値だけを顕在化させる(図 2)。

	空間の価値	顕在化	空間の魅力	
米山	側線跡・防潮堤		水平線の道	
笠島	ホーム待合室		ヒミツの待合室	
青海川	転落防止柵		海の上ベンチ	
鯨波	線路下の風よけ		散歩の寄りところ	
東柏崎	荒廃ホーム		見えない溜まり段	
西中通り	暗がりホーム		翠色の駅	
荒浜	立ち入り禁止柵		稲架けカベ	
刈羽	砂丘に平行なホーム		スキニロード	
西山	近道スロープ		枕木アプローチ	
礼拝	駅前の空き地		日常を覗く築山	
石地	はめ殺し窓		作品・額縁	
茨目	歩道橋スモークガラス		ぼーっとカウンター	
北条	線路脇の緑地		レール影の道	
越後広田	広大な島式ホーム		水溜まりホーム	
長島	果てないホーム		端っこ待合室	

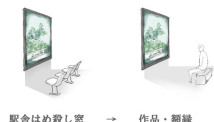
表 1 提案する価値の一覧



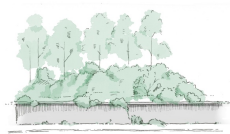
「ホーム」展示室

石地駅

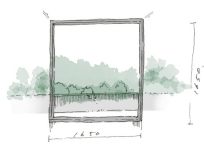
無人駅の多くが、その機能を縮小させていく中で残った遺構は自然に選っていく。
この駅も、かつては2面2線で、向いにホームがあった。使われなくなったホームの成れの果てがフレーミングされていた。



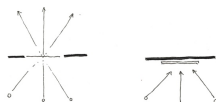
駅舎はめ殺し窓 → 作品・額縁



荒れ果てたホームは自然に選りつつある



額縁の中の作品のように切り取れたホーム



掛けられた作品とは違い
フレーミングされる景色は角度によって変わる

待合室には10脚のイス(視点)がある
有効視野角を用いて、最適な視点にスツールを置く



コンクリートのスツールは
高ホームを顕在化し、魅力を創出し続ける



図3 (1) 石地駅

石地駅を例に示す(1)。駅舎内のはめ殺し窓を、作品の額縁とする舎内へと再構築する。この窓は、向い側廃ホームの景色をうまくフレーミングしている。しかし、その窓へ向けられたイス(視点)は10脚もあり最適な位置にはなっていない。これを有効視野角を用いて、最適な位置の1脚へ変更する。



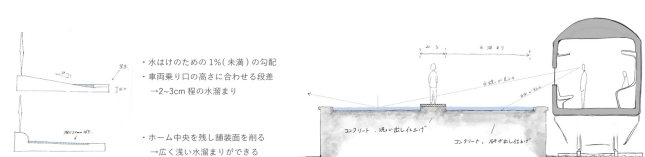
雨上がりの水鏡

越後広田駅

このまちの憂鬱な雨は、人の心までも曇らせている気がする。
この駅を訪れた時は、そんな憂鬱な雨が止んだ後だった。
ホームの脇に大きな水溜まりを見つけた。
憂鬱な雨は、光る綺麗な空と山々を見せてくれた。



広大な島式ホーム → 水溜まりホーム

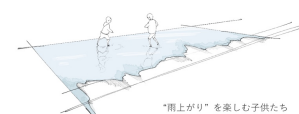


水面は1日で約1mm蒸発する → 5日もせずに水は蒸発する。

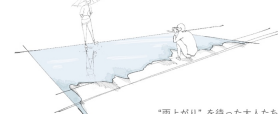


洗い出し仕上げ
研ぎ出し仕上げ

ホーム中央は歩きやすい洗い出し。
研ぎ出し面は水溜りに透過する。



“雨上がり”を楽しむ子供たち



“雨上がり”を持った大人たち

憂鬱だった雨が、この駅に魅力となって溜まる



図2 (2) 越後広田駅

越後広田駅を例に示す。利用者数に見合わない広大なホームを水鏡が発生するホームへと再構築する。発想のきっかけは、ホームの水溜まりである。ホームの微小な勾配と雨が演出する空間は、この駅を大きく反射させ、この駅だけの魅力を作り出す。